

徳島市農業・農村振興ビジョン（素案）に対するパブリックコメント手続きの実施結果

意見募集期間 平成26年12月24日から平成27年1月23日まで

意見提出者数 6名

内訳	30代	男性	2名	農業者
	40代	女性	3名	農業者
	50代	男性	1名	農業者

提出意見数 27件

計画(素案)の修正 提出いただいたご意見に対する市の回答(案)は次の通りであり、今回、ご意見に基づくビジョンの方針等の修正はありません。
なお、いただいたご意見につきましては、今後、本計画を推進していく上で参考とさせていただきます。

パブリックコメントの意見に対する回答

1 優れた農業経営の確立に関すること

番	意見	回答
1	阿波の伝統野菜の推進	「阿波みどり」(白瓜)や「阿波晩生」(大根の一種)といった阿波の伝統野菜も守り伝えていかなければならないと考えています。今後ビジョンを展開する中で参考にさせていただきたい。
2	加工専用品種導入	地域の戦略に応じた加工用品種の導入について、種苗会社による品種の選定や研究等の情報提供に努めてまいります。
3	スーパーL資金の活用	P15の(9)「農業資金の活用」の中で記載のとおり、農業経営基盤強化基金(スーパーL資金)などの情報提供や活用対象者の条件である認定農業者の推進を進めてまいります。
4	リース事業(ハウス・農機具)整備	優れた農業経営の確立のため、高付加価値化、低コスト化や省力化につながる施設や農業機械の整備については、県の補助事業などを活用しながら進めてまいります。
5	徳島市の中心は春夏の水稻がメイン出荷物でなく、秋冬野菜がメインであると思認識しなければならないと思う。そこに対する支援の強化が必要である。地域水田フル活用ビジョンの推進ではなく、秋冬野菜の支援強化政策をつくってはどうか。6次産業化政策e t cの活用ではなく。	P14の(6)「地域水田フル活用ビジョン」(の推進)においては、野菜の推進方針も定めており、その実現に向け「経営所得安定対策事業」における「産地交付金」を活用し、秋冬野菜への支援強化を図ってまいります。
6	農業者の高齢化、毎年起こる異常気象、TPPによる先行き不透明感など、これからの農業に対して不安が多くあります。このような状況の中で、とくに所得の安定向上を図るための政策を強く希望します。そうすれば担い手不足や耕作放棄地の問題解決にもつながる良い連鎖が生まれるのではないのでしょうか。	農業の担い手を確保するためにも、農業所得を増やす施策としてP13～「優れた農業経営の確立」に記載の各施策をすすめるほか、P16～の「多様な担い手の育成・確保」についても併せてすすめてまいります。

2 多様な担い手の育成確保に関すること

番	意見	回答
7	認定農業者の地位、優位性をアピール。農業者全員に認定。	P16の(1)「認定農業者の育成・支援」の中で、できるだけ多くの意欲ある農業者が認定されるよう啓発支援を行います。
8	本市農業中核を担うJA、青壮年、10年後の主たる経営者のため、今から認定、GAP、グローバルGAP取得に向け支援。	認定農業者の育成・支援については、上記のようにすすめてまいります。また、GAPの推進については、意見16番の回答によりすすめます。
9	農業維持の婚活・委員会パートナー事業の拡充	安定した家族経営体を確保するためにも有効な手段であり、既存の事業の内容を見直しながら継続していきたい。
10	季節労働力(地域でのワークシェア・みかんアルバイト)	P17の(7)「農業雇用労働力の確保」において、計画を具体化する中でご意見を参考にさせていただきます。

11	農業に携わろうとする時、現状では「農家に生まれる」「農家に嫁ぐ」「新規就農する」などがあるが、若くて資金がなくても農業に携わることができる選択肢として、「農業の会社に就職する」という方法があってもいいと思う。そのために、県や市のバックアップのもと、既存の農家を法人化し、新卒者やハローワークに求人募集できれば 農業人口が増え、生産量もアップすると思う。	P 17の(3)「集落営農の推進」や(4)「法人化の推進」に即して、県・国とも連携した法人化支援、雇用の受け皿支援をすすめます。
----	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------

3 優良農地の確保と効率的利用に関すること

番	意 見	回 答
12	(農地中間管理機構の活用)貸し手側の意向が伝わらず、見ず知らずの人に貸すのは抵抗あり、JA・農業委員会の協力必要。	(1)農地中間管理機構の活用にあたっては、JA、農業委員も入った地域の話し合いが必要となっており、その中で貸し手の意向が反映できるようにしたいと考えています。
13	(耕作放棄地の発生防止と有効利用について)指導で終わらず(火事・不法投棄防止)	今後とも現状把握を続けていくほか、農地中間管理事業の活用やJAに貸与しているフレールモア(大型草刈機)の有効活用など耕作放棄地の対策をすすめていきたいと考えています。
14	優れた農業経営や、多様な担い手の育成という前に、農地の税金をもっと安くしてほしい。街中に田畑があるので、どんどん税金が高くなっていき、どんなに働いても固定資産税しか払えないのが現状。だから歳をとったら手放していく人が多いということをわかってほしい。	今回のビジョンにおいては、市街地においても農業を続ける意欲のある農業者に対して市独自の支援を行うこととしており、市街地農業の振興を図ることとしています。
15	ビジョンの概要ですが、方向と将来像がしっかりされていると思いました。担い手育成、特にイターンでの就農者が土地・資金を借りるには、かなりハードルが高いと聞きます。現状の担い手育成は素晴らしいものがありますので、就農しやすい環境作りを実施していただきたいです。そのためには施策 を具体的に進めてほしいと思います。 徳島市は一部の山間部を除き、住宅との混住化がすすんでいる地域が多く、周辺地域の方々とコミュニケーションづくりも重要でないかと考えます。 - 2のようなデータベースを基に、より徳島市に就農しやすい活動支援を今後も推し進めてほしいと思います。大変素晴らしいビジョンだと思います。	農業委員会との連携を図りながら、農地データベースを有効に活用した担い手への農地流動化により、優良農地の確保存続と産地の維持発展に努めてまいります。

4 農産物の安全と信頼の確保に関すること

番	意 見	回 答
16	グローバルGAPの導入	P 21の(2)「生産情報開示への取組みと農産物認証制度の活用」において、とくしま安2GAP等の活用推進をすすめます。グローバルGAPの導入については、P 13の(2)「海外への販路拡大」を進める中で検討していきたい。
17	本市農業者全員に農薬適正使用アドバイザー研修をし、事故を防止。	農業者全員に研修を開催するというのは難しいかと思いますが、関係機関と協議しながら周知に努めます。

18	<p>農業者として安全安心な農産物を作ることは当たり前であり、このことをいつまで発信し続けていくのか。</p>	<p>P 2 1の(1)「農薬の適正な使用」へのご意見と思われませんが、現在も全国レベルで毎年農薬危害防止運動が展開されており、農産物の安全確保のみならず市民の健康の保護及び生活環境の観点からも今後も引き続き実施してまいります。</p>
----	---------------------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

5 環境にやさしい農業の推進に関すること

番	意見	回答
20	<p>観光水田・自然体系を生かす</p>	<p>有機農業や特別栽培農産物の栽培など環境にやさしい農業の推進をすすめる中で、水田生態系の質的向上につながる営農活動の導入についても支援していきます。</p>
21	<p>土壌診断をし、化学肥料の過剰使用をなくす。</p>	<p>P 2 2の(1)「土づくりを基本とした持続的農業の推進」を進める中で、県支援センターの土壌診断等も活用していきたい。</p>
22	<p>緑肥の導入（レンゲ・ソルゴ等）</p>	<p>緑肥利用は比較的簡単に取り組める環境保全型の技術であり、土壌改善等様々な効果が期待されるので、緑肥の導入に際しては、国の環境保全型農業直接支援事業や経営所得対策を活用し、推進していきます。</p>

6 市民とふれあう農業の展開に関すること

番	意見	回答
23	<p>農業地域マップ、「音・臭い・虫が出るマップ」で市民に周知</p>	<p>マップの作成はむずかしいと思いますが、音や臭いに関する苦情対応は環境保全課とも連携しながら対応しており、今後も農業に対する市民の理解が得られるように努めます。</p>
24	<p>食材フェア、近隣市町村だけではなく県域に。昔みたいに。</p>	<p>食材フェアは、東部圏域市町村連携事業として近隣市町村も参加し、今年度は鳴門市も加わり、生産者と消費者の交流の場として定着している今後の施策実施にあたりご意見を参考にしたい。</p>
25	<p>農業に対するイメージアップも必要ではないか。耕作放棄地を利用し小学校の授業に農業体験を取り入れるなど小さい頃から農業に興味を持たせる。作業着もアウトドアのおしゃれなウェアなどを提案すれば、若者にも受け入れられやすい（スポーツ店などと連携）</p>	<p>P 2 3の(1)「農業・農村に対する理解の促進」のためにも農業に対するイメージアップが大切で農水省でも「農業女子プロジェクト」を推進している。 今後の施策実行にあたりご意見を参考にさせていただきます。</p>
26	<p>「とくしまI P P I N店」をもっとPRする。アンケートにもあるように認定されても「あまり効果がない」のが現状。認定店、利用者双方に特典（スタンプカード）などがあれば認知されていくと思う。</p>	<p>I P P I N店についてはご意見のとおり、現在、認定自体の伸び悩みや認定のメリット感が薄れているのは事実であり、次なる仕掛けが必要であると考えております。貴重なご意見として、計画を具体化する際の参考にさせていただきます。</p>

ビジョン全体に関すること

番	意 見	回 答
27	<p>第1次、2次、3次政策案と何が変わっているのですか。政府の出した支援策をそのまま素案に書いていただけにみえます。もっと徳島市独自性のある政策をつくってください。</p>	<p>今回のビジョンでは、これまでと比べて6次産業化や鳥獣害対策、農地中間管理機構の活用や市街地農業の存続支援、有機農業の推進などを明確に施策として位置づけています。</p> <p>そのほかにも、道の駅の活用や関東への販売促進、新規就農者育成の強化など、施策をすすめるうえで、独自の取組みも行ってまいります。</p> <p>ただ、限られた予算を効率的に使用するためには、国の施策をうまく活用することが大切だと考えております。</p>